

市原市くさ草刈かり遺跡いⅡせき

2000

株式会社 日鉄エレクトクス
財団法人 市原市文化財センター

序 文

市原市は、自然が豊かに残る房総半島のちょうど中央に位置し、そこには上総国分寺に代表される著名な遺跡が数多く所在します。市内における埋蔵文化財の発掘調査件数は、1970年代以降高度経済成長に相応して急激に増加し、その結果多くの研究成果をあげてまいりました。しかし、大規模造成などによる自然地形の改変が進むことは、多くの遺跡を失うことにつながります。来るべき来世紀に向けて、埋蔵文化財の何を残し、伝えていくべきか、今わたしたちに課された重要な問題でありましょう。

今回ここに報告します草刈遺跡は、第1種無線基地局の建設に伴い発掘調査を実施したものです。草刈遺跡は、旧石器時代から中近世までの複合遺跡として知られる広大な遺跡であります。そのほんの一隅ではありますが、調査の結果、縄文時代早期から平安時代にかけての遺構が検出されたほか、草刈古墳群の一つである古墳の周溝の一部を確認することができました。

この報告書が、学術資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護と理解のために広く市民の皆様にも活用していただけるならば幸いです。

最後に、発掘調査並びに本書の刊行にあたり、御指導・御協力をいただきました株式会社日鉄エレックス、千葉県教育庁文化課、市原市教育委員会ふるさと文化課をはじめとする関係諸機関に対し、心から感謝の意を表します。

平成12年2月

財団法人 市原市文化財センター
理事長 小 茶 文 夫

例 言

1. 本書は、市原市草刈字扇谷1,332の一部に所在する草刈遺跡（遺跡コード セ295）の、埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から報告書刊行に至る業務は、株式会社日鉄エレックスの委託を受け、財団法人市原市文化財センターが実施した。
3. 発掘調査の担当者及び実施期間は、下記のとおりである。

確認調査	担当者	牧野光隆	調査期間	平成11年5月24日～平成11年5月26日
			対象面積	150㎡
本調査	担当者	牧野光隆	調査期間	平成11年5月26日～平成11年6月3日
			対象面積	36㎡
4. 本書の編集及び執筆は、牧野が行った。
5. 出土遺物及び調査記録は、すべて市原市埋蔵文化財調査センターで収蔵・保管している。
6. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁文化課・市原市教育委員会ふるさと文化課・株式会社日鉄エレックスの関係機関から御指導、御協力をいただいた。

凡 例

1. 弥生土器・土師器の遺物実測図の縮尺は1/4、縄文土器の実測図および拓影図は1/3である。石器・鉄器などの例外は明記した。
2. 縄文時代早期の土器片の拓影図（第4図3～15）は、断面に対して左側が表面である。
3. 本書で使用した地形図は、国土地理院発行 1/25,000地形図「蘇我」（NI-54-19-15-2）である。
4. 本書で使用した図面の方位は座標北である。

本 文 目 次

1. 調査に至る経緯	1
2. 遺跡の位置と環境	1
3. 調査の概要	3
4. 遺構と遺物	3
5. ま と め	7

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡
第2図	周辺地形図
第3図	遺構平面図および土層断面図
第4図	001出土遺物
第5図	001・002・003出土遺物
第6図	大宮神社4号墳・5号墳墳丘測量図

写真図版目次

図版1	調査風景・001遺物出土状況
	調査区全景・002
	003・004ピット群
	出土遺物（1）
図版2	出土遺物（2）

1. 調査にいたる経緯

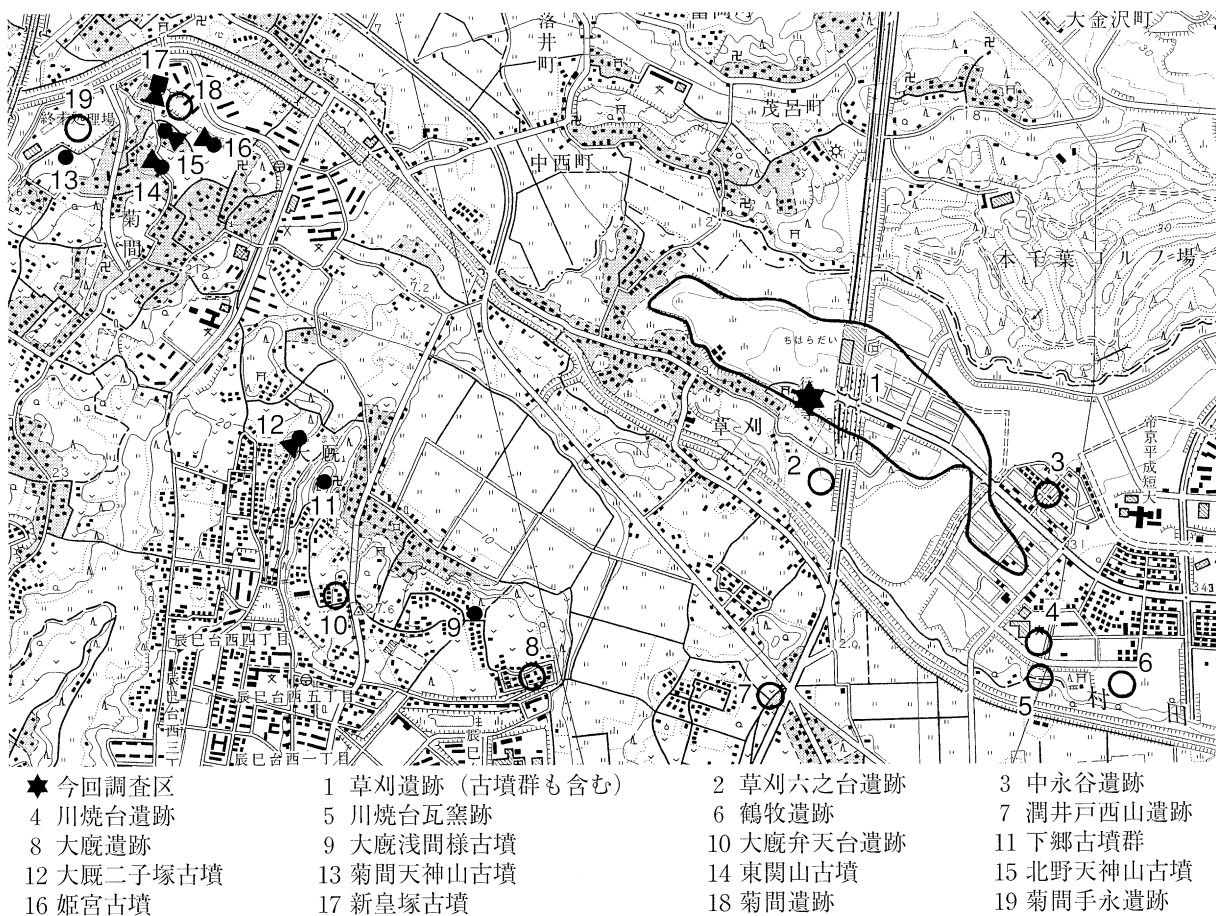
今回の発掘調査は、株式会社日鉄エレックスによる無線基地局の建設に先行して実施されたものである。工事の着工に先がけ、株式会社日鉄エレックスから、地区内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについての照会が、千葉県教育委員会教育長および市原市教育委員会教育長宛提出された。これを受けて、千葉県教育庁文化課、市原市教育委員会ふるさと文化課との三者により慎重に協議を重ねた結果、遺構の有無を確認するための確認調査を実施することとなった。

確認調査の結果、铁塔基礎工事の影響がおよぼ36㎡の範囲で本調査の必要が生じたため、平成11年5月26日～同年6月3日まで、本調査が実施された。

2. 遺跡の位置と環境

遺跡は村田川中流域右岸の台地中央部の南端に位置し、南側は急斜面が迫っている。調査区周辺の標高は約32mであり、埋立前の東京湾岸から東に約5kmの場所にある。遺跡の所在する台地は、南側の村田川と北側の茂呂谷津に挟まれ、東西に約1300mと長く、中央部分の最も幅の広い所で400mを測る。調査区とその南側斜面の崖下との比高差は約23mである。

草刈遺跡が所在するこの台地は、ちはら台ニュータウンの造成および千葉急行線（現京成電鉄線）の建設に先行して、すでにほぼ全面的に調査が行われており、旧石器時代から平安時代にかけての遺構が台地全面に濃密にひろがっていることが確認された。各時代の住居跡の合計だけでも千数百軒と

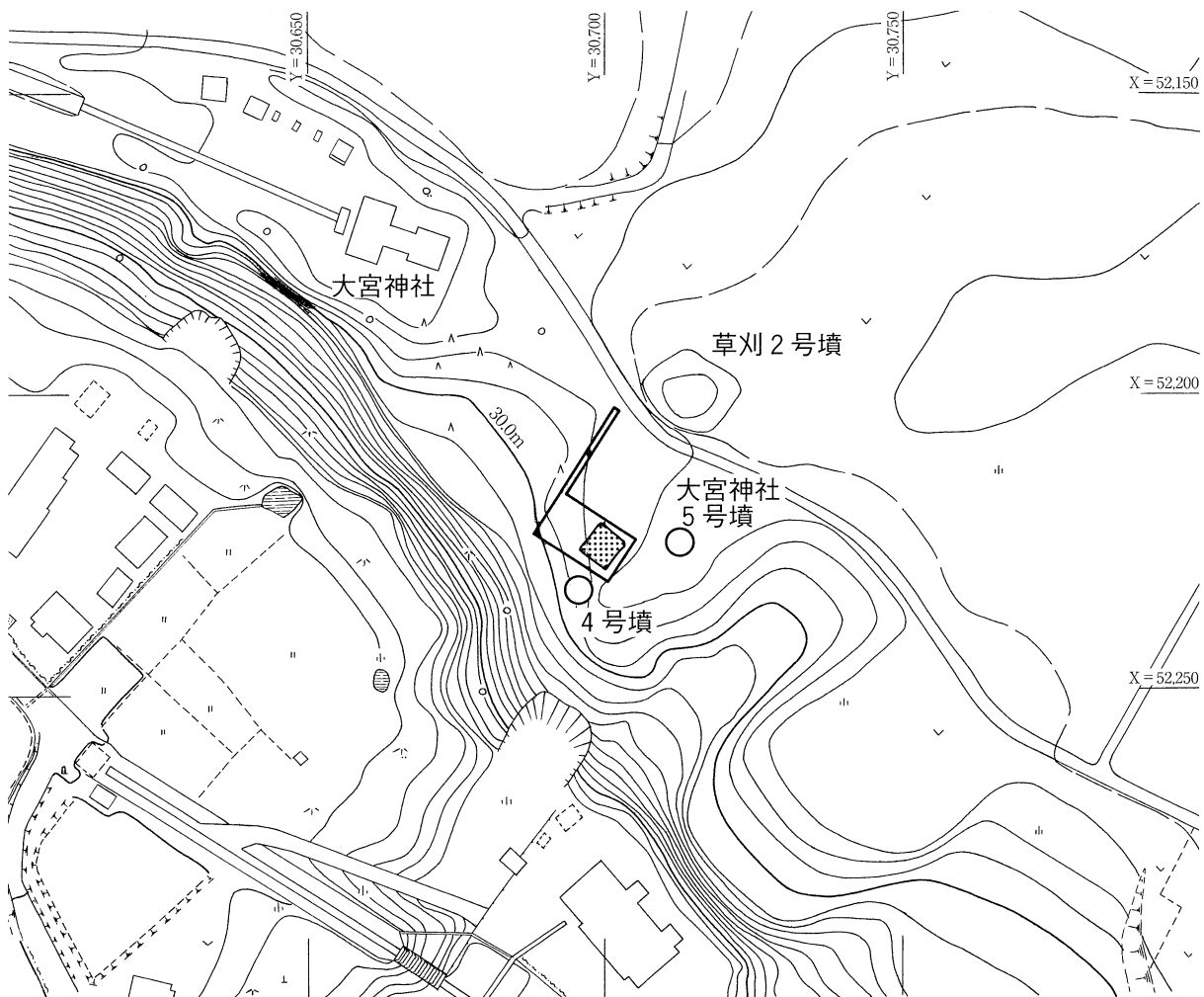


第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

いわれる規模である。なかでも縄文時代中期の、貝層を伴う環状集落である草刈貝塚が全面的に調査されたことが特筆される。弥生時代の後期から古墳時代後期にかけては、台地全体に大規模集落が展開していた。そして台地の東半部分を中心に草刈古墳群が形成されており、前方後円墳・方墳・円墳など百数十基が密集しており、一部は公園として保存されている。これら調査の詳細は、既刊の報告書によりたいが、多くは現在整理中である。

今回の調査区は、1辺約25mの方墳と推定される草刈2号墳（第2図参照）の南側約20mの距離にあたる。草刈古墳群の一角である大宮神社古墳群（総数5基）のうち、4号墳と5号墳にも隣接している（第6図参照）。草刈2号墳は調査後に削平されているが、大宮神社古墳群は、ちはら台ニュータウンの造成区画外に位置するため、墳丘も残っている。しかし、台地南端の断崖上にかろうじてのっている状態であるため危険な状態である。

周辺に目を向けると、草刈遺跡の東側には、小銅鐸を出土した川焼台遺跡や古墳時代後期の集落を中心とした中永谷遺跡・鶴牧遺跡などがある。村田川を挟んで南側には、弥生時代の環濠や古墳時代後期の居館跡を検出した潤井戸西山遺跡がある。その西にはやはり環濠を検出した大厩遺跡がひろがり、墳丘径45mを測る前期古墳の大厩浅間様古墳をはじめ、保存状態が良好な前方後円墳の大厩二子塚古墳などが点在する。村田川の下流方面には、新皇塚古墳をはじめとする菊麻国造の首長墓といわれる菊間古墳群が、市原台地の北端に占地している。



第2図 周辺地形図 (S=1/1250)

3. 調査の概要

調査地点は未調査の大宮神社古墳群の4・5号墳に隣接しており、草刈貝塚の環状集落の範囲がおよぶ西端でもあるため、相当の密度の遺構検出が予想された。調査前の状況は竹林であり、竹の根による攪乱も考えられたが、新しい盛り土がかなり厚く、現表土から遺構検出面までの深さが130～180cmにも達したため、大きな攪乱は受けていなかった。

36㎡という非常に限られた範囲であったため、遺構番号001とした古墳の周溝とみられる溝にすべて包括され、調査区のほぼ全体が溝の覆土であることが調査の結果判明した。

上記の溝以外に検出された遺構は、縄文時代の土坑やピット群のほか、平安時代と考えられるカマドの煙道を検出した。存在が予想された大宮神社5号墳の周溝は検出されなかった。

4. 遺構と遺物

001 (第3～5図、図版1・2)

大宮神社4号墳の周溝が、設定した方形の調査区にきれいに入り込んだ形である。南東の壁面の土層断面では溝の形状がはっきりと検出できたものの、北西の壁面では、特に南の墳丘側よりの肩部分が検出できなかった。溝の断面形状は非常になだらかである。北東側の上場は緩やかな弧を描いていると言えなくもないが、底面のラインは直線形状をなす。南西側(墳丘側)の、溝の掘りこみラインは検出されず、調査区外にあると考えられるため、溝幅は5mを大きく越えるものと推定される。底面のレベルは北西側で高く、南東に向かって緩やかに下り、その比高差は15cmである。

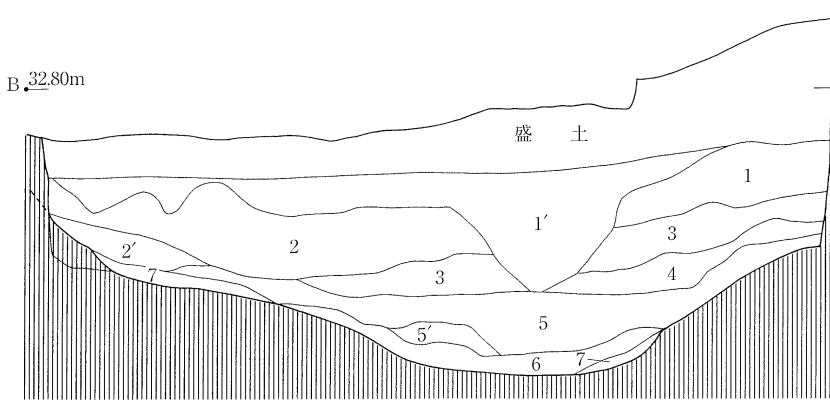
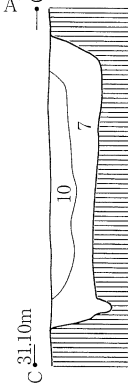
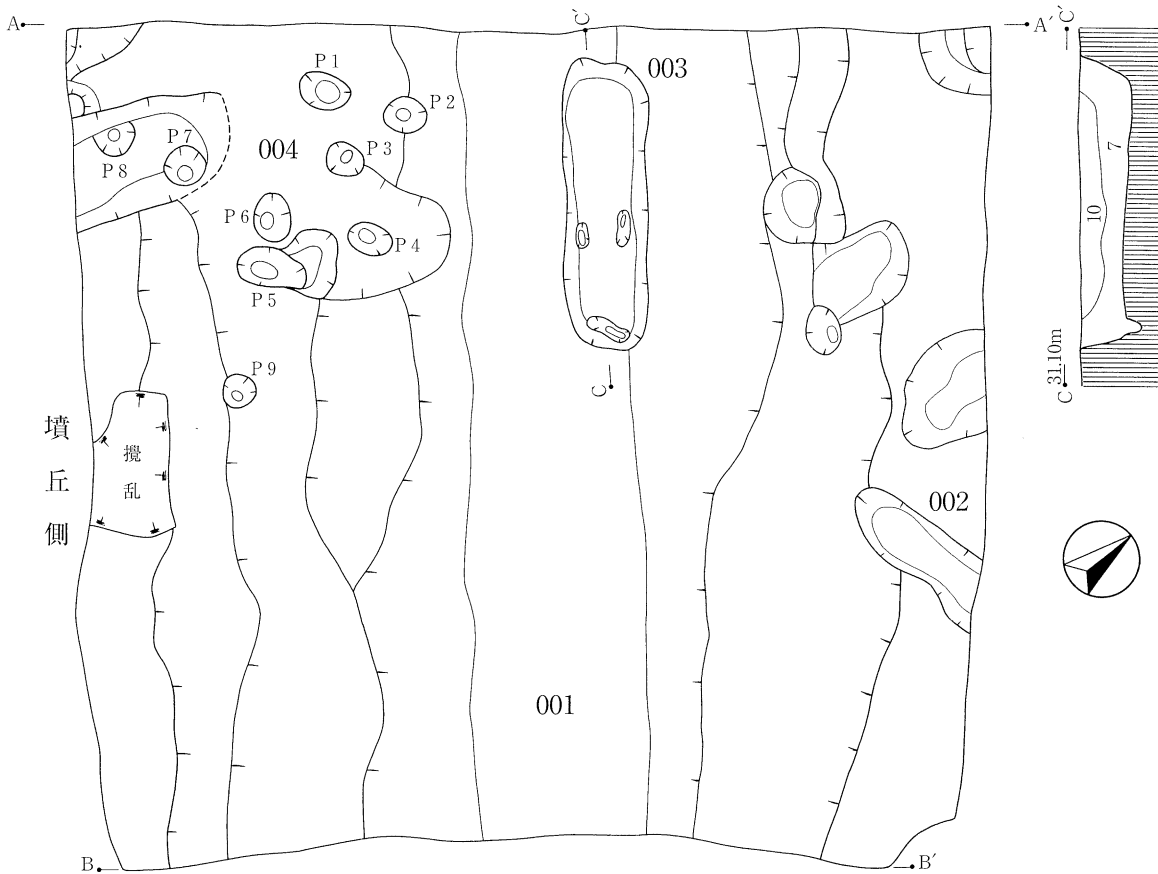
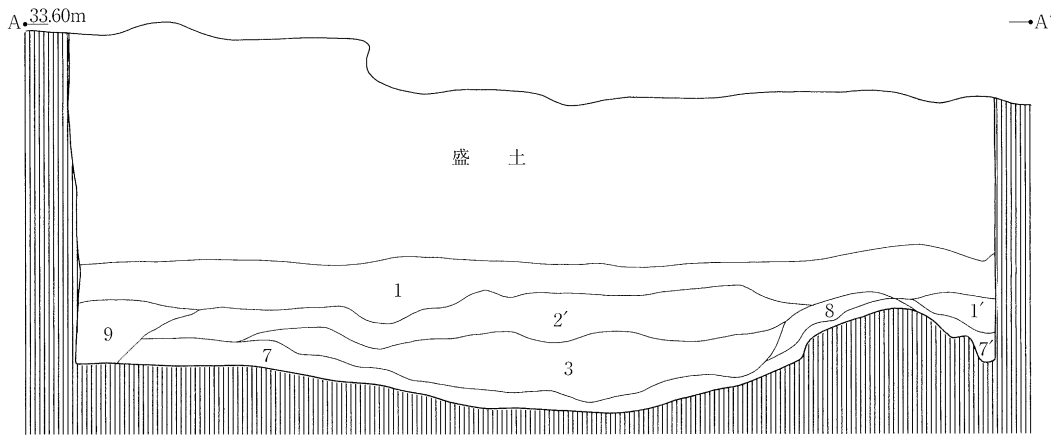
出土遺物は縄文時代早期から平安時代にいたるまで多岐にわたっているが、いずれも覆土とともに溝中に流れ込んだ様相を呈していた。弥生時代後期の輪積みを有する甕(第5図1)は、溝の北東斜面から底面付近にかけて5層・6層からみつかった。平安時代と考えられる布目瓦(第5図12・13)は、やはり北東斜面付近の遺構検出面に近い2'層に散布していた。

このような状況から、この溝の時期を出土遺物から判断することは難しい。しかし、この遺構は調査区南西側に隣接する墳丘の周溝である、と考えることが現時点では妥当であろう。なだらかな周溝は前期古墳の特徴であり、そう考えて遺物を見直すと、第5図7の小型鉢などは当該時期の所産であろう。

出土遺物は縄文中期の土器片が一番多く、次いで弥生後期、縄文早期の順であったが、どれもほとんどが小破片であり、復元できたのは前述の弥生の甕のみであった。第4図1～15は縄文時代早期条痕文期の土器であり、すべて胎土に繊維を混入する。ほぼ鶴ガ島台式期の所産であろうが、1～4の口縁部破片は口唇部に刻みがみられない。調査区北側の角付近の覆土には焼土粒が多く見られたため、付近に縄文早期後半の条痕文期の炉穴が存在する可能性が高いと考えられる。16～38は縄文時代中期、39は土器片垂、40はチャート製の加工痕のあるフレイク、41は軽石製の砥石である。第5図8はミニチュアの手づくね土器、9は鉄器片、10・11は古墳時代後期の土師器で、10は両面に赤彩してある。

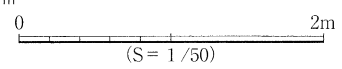
002 (第3・5図、図版1・2)

調査区北西壁より001溝の肩部分にかけて検出されたカマドの煙道部である。最大幅は42cm、検出面

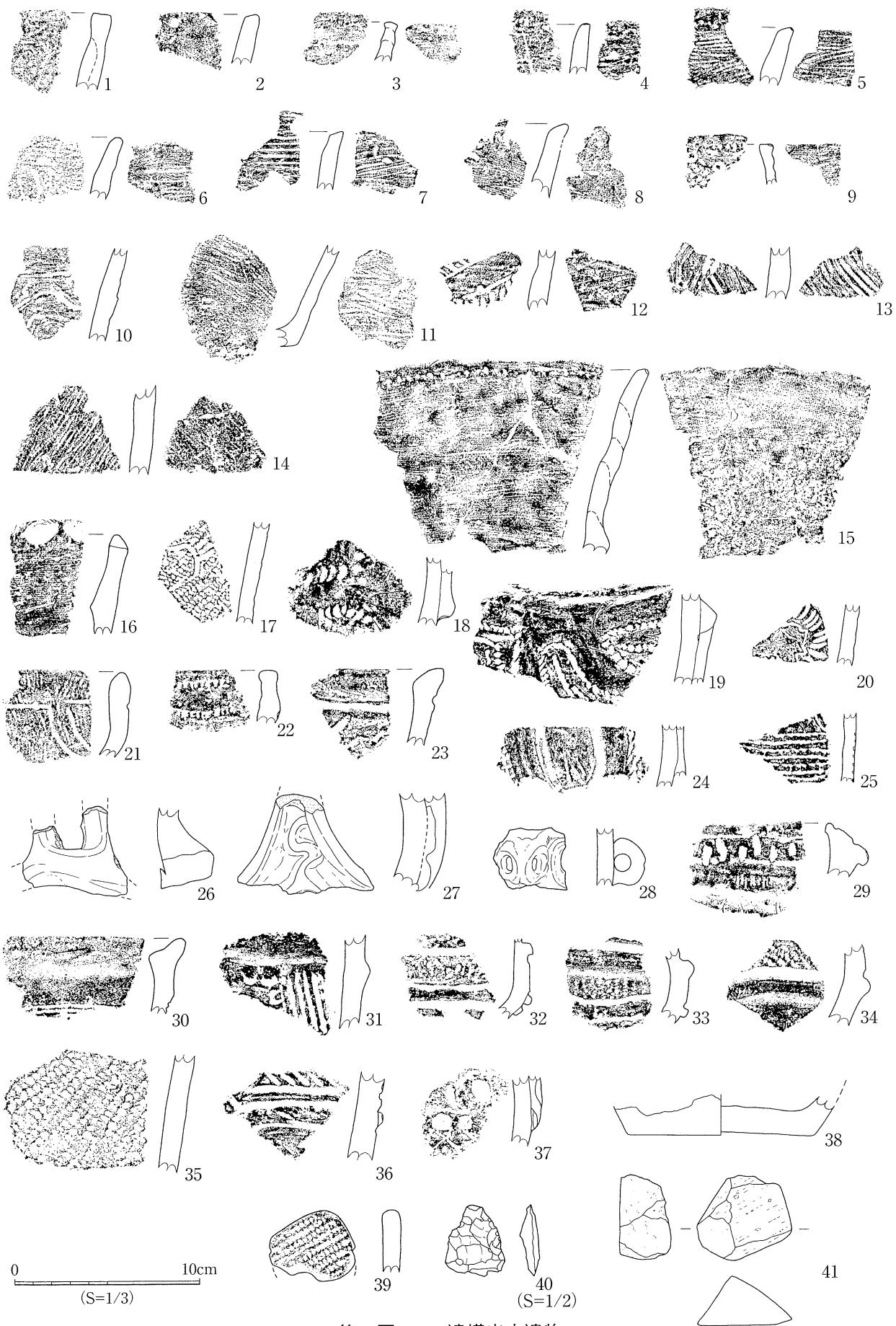


土層説明

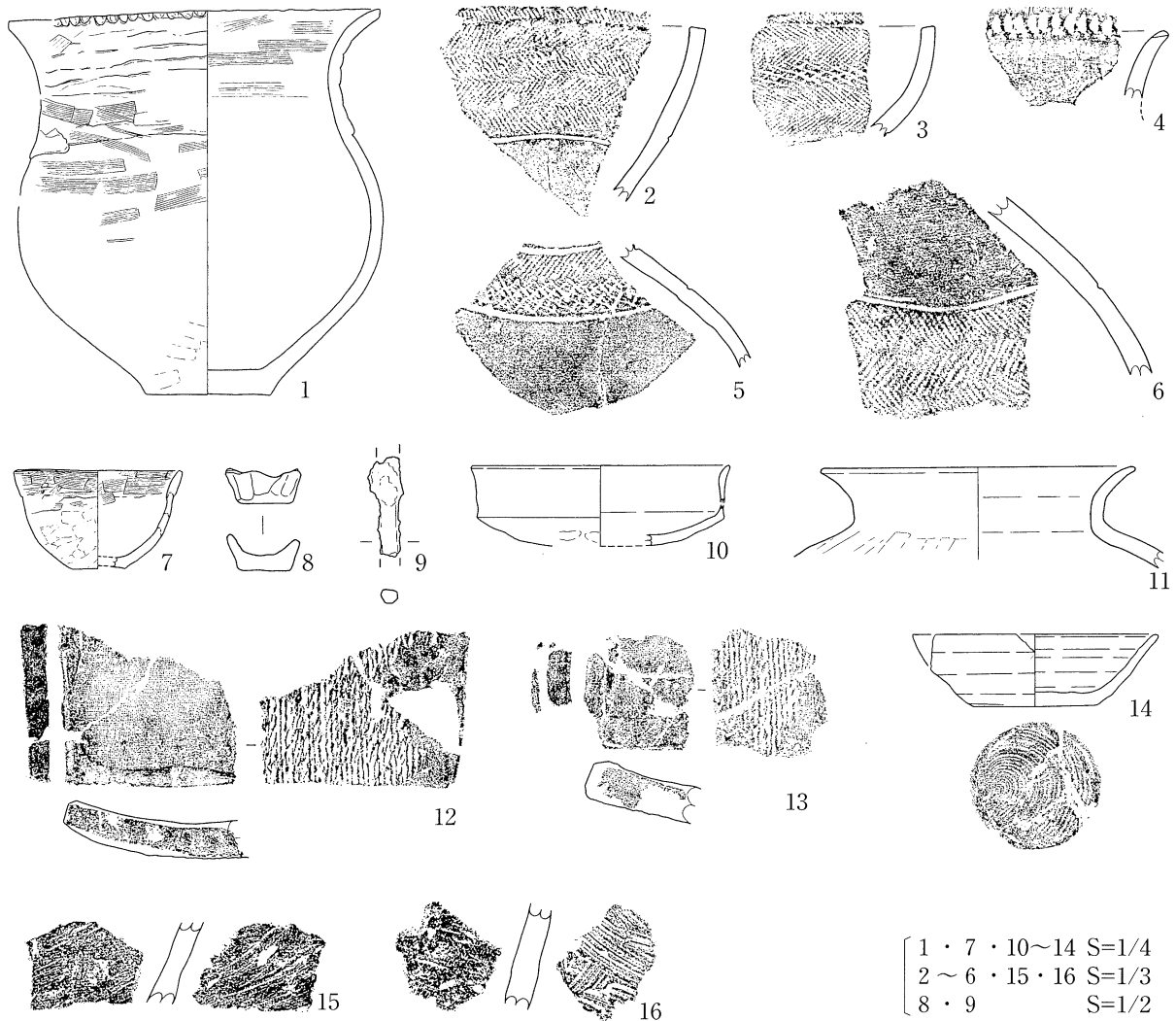
1	明褐色	根多い
1'	明褐色	竹の根による攪乱層
2	暗褐色	ローム粒・橙色粒多い
2'	暗褐色	2より明 含有粒子少
3	暗褐色	2より暗 含有粒子少
4	暗褐色	ロームブロック(~20mm)
5	明褐色	ローム分多い 橙色粒少
5'	明褐色	粘性弱
6	暗褐色	5よりやや暗
7	黄褐色	ローム粒(~7mm)・橙色粒少
7'	黄褐色	粘性弱
8	黄褐色	いわゆるソフトローム
9	明褐色	7層+ロームブロック
10	暗灰褐色	1層+7層
		1層+ロームブロック
		焼土粒



第3図 遺構平面図および土層断面図



第4図 001遺構出土遺物



第5図 001(1~13)・002(14)・003(15・16) 遺構出土遺物

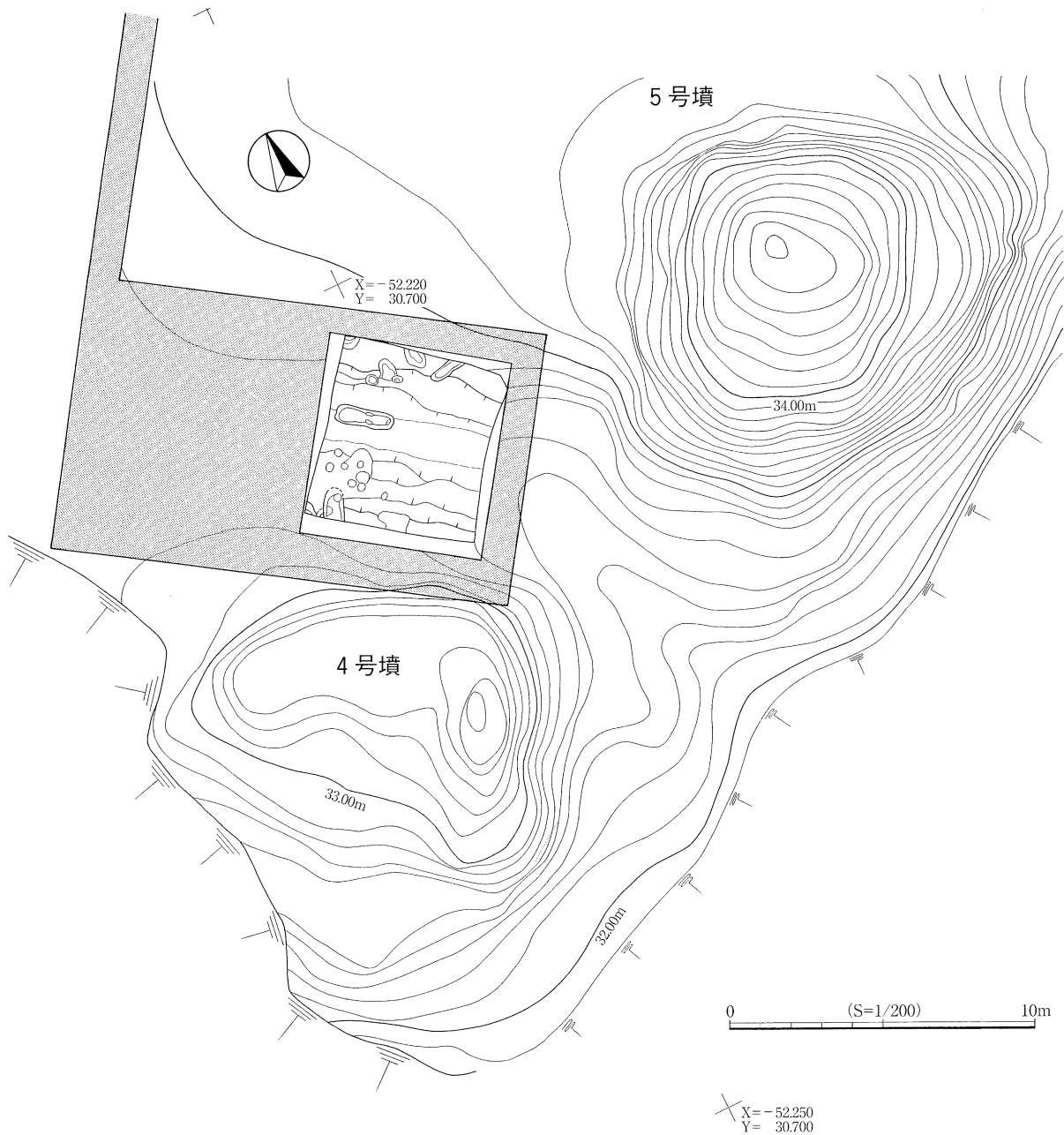
から底面までの深さは10~18cmである。先端付近の覆土より、少量ではあるが白色粘土粒が検出されたことと、底部回転糸切り未調整のロクロ土師器の坏(第5図14)が見つまっていることから、平安時代の遺構であると判断した。また、上記001号覆土より出土した布目瓦片も、この遺構に伴っていたものと考えられる。

003 (第3・5図、図版1・2)

周溝底面より検出された土坑である。形態は隅丸長方形を呈し、長辺は1.95m。検出面からの深さは、約30cm。南西端および中央部付近に深さ10数cmの小ピットが3つある。001にともなう周溝内土坑の可能性も考えられたが、覆土の状態およびみつかった土器片(第5図15・16)から、縄文時代早期後半の条痕文期の所産である可能性が高いと判断した。

004 (第3図、図版1・2)

調査区西隅付近に検出されたピット群である。ピットは全部で9個検出された。深さはP1が21cm、P2が28cm、P3が36cm、P4が23cm、P5が73cm、P6が50cm、P7が66cm、P8が26cm、P9が42cmである。どのピットも径が小さく、配置も無秩序である。草刈貝塚に隣接しているという状況および出土遺物から、縄文時代中期の遺構とも考えられる。



第6図 大宮神社古墳群墳丘測量図

5. まとめ

大宮神社古墳群は、大宮神社を挟んで西側に墳丘長24mの前方後円墳1基と円墳2基が存在し、東側に円墳2基が周知されていた。今回の調査によって検出した溝は、調査区に隣接する大宮神社4号墳の周溝である可能性が高い。周溝の底面から現存する墳丘の頂部の比高差は2.74mであった。4号墳は、今までは円墳として周知されていたが、改めて行った墳丘測量の図面をみると方墳の形状であることがわかる。このことは、検出した周溝の形状からも示唆される。ただ、1辺が12m前後の方墳にしては、周溝幅が5mを越えるという規模では不釣り合いな感もぬぐいきれない。

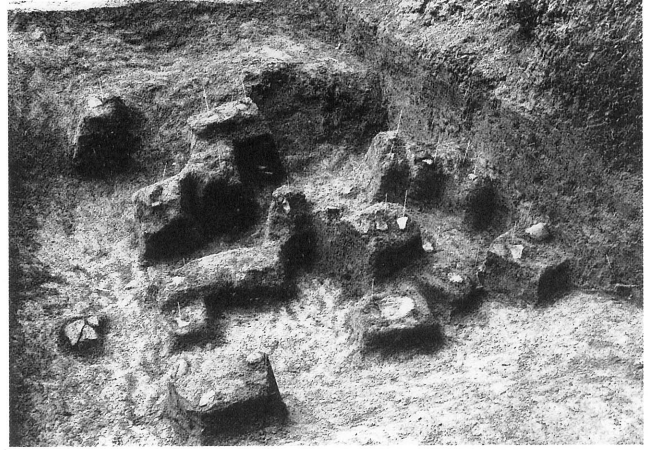
5号墳も、測量図でみると、円墳ではなく方墳である可能性も考えられる。

報告書抄録

ふりがな	いちはらしくさかりいせき							
書名	市原市草刈遺跡Ⅱ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	財団法人 市原市文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第71集							
編著者名	牧野 光隆							
編集機関	財団法人 市原市文化財センター							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地				TEL 0436 (41) 7300			
発行年月日	2000年2月21日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
くさかりいせき 草刈遺跡	ちほけんいちほらし 千葉県市原市 くさかりあざおうぎだに 草刈字扇谷 1332の一部	12219	セ295	35度 31分 44秒	140度 10分 18秒	19990524 ～ 19990603	36m ²	第一種無 線基地局 の建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
草刈遺跡	包蔵地	縄文時代	土坑・ピット	縄文土器(早期・中期)		条痕文系土器が出土		
	包蔵地	弥生時代		弥生土器(後期)				
	古墳	古墳時代	方墳	土師器(前期)		大宮神社古墳群4号 墳の周溝を検出		
	集落	平安時代	住居跡	土師器坏				



調査風景 (右上の高まりが墳丘)



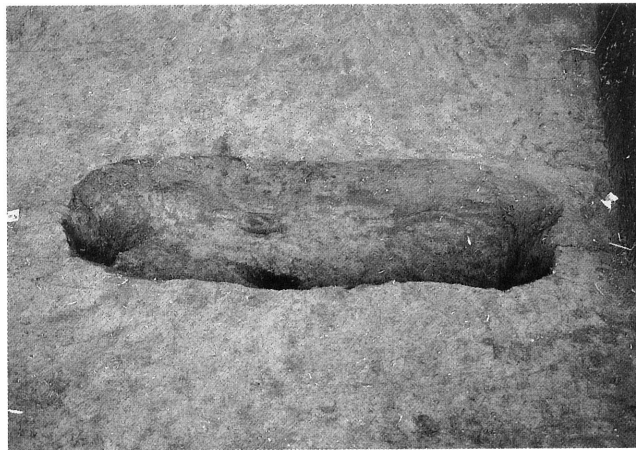
001遺物出土状況



調査区全景



002遺構

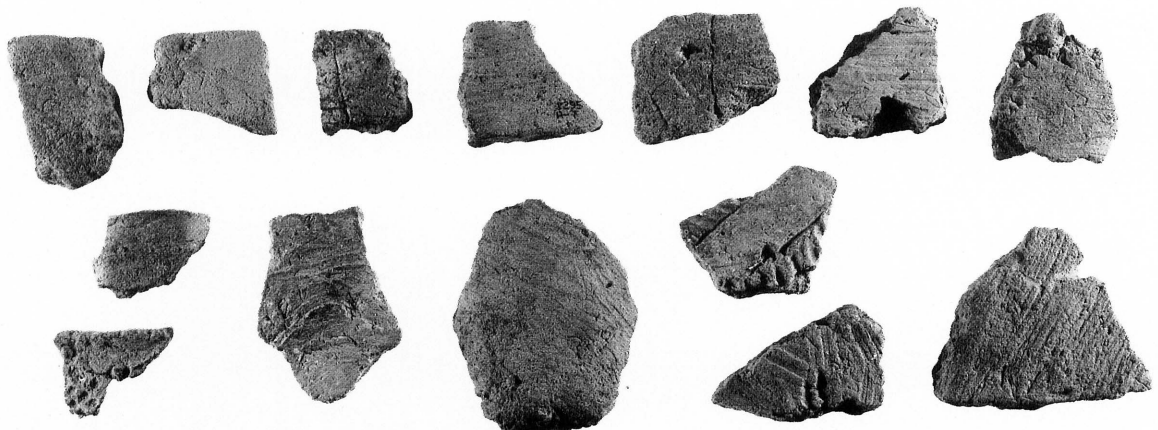


003遺構



004ピット群

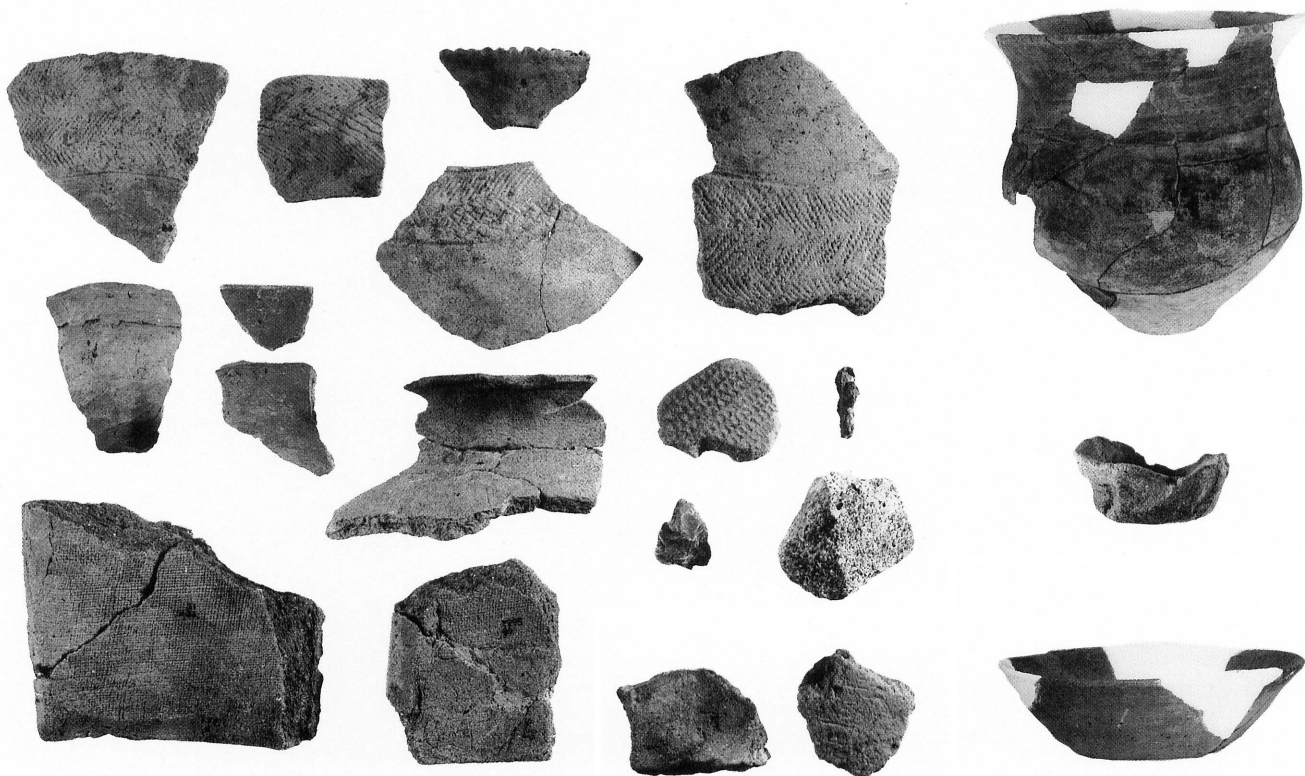
001出土遺物 (縄文早期)



001出土遺物 (縄文早・中期)



001出土遺物 (弥生以降)



003出土遺物

002出土遺物

財団法人 市原市文化財センター調査報告書 第71集

市原市^{くさ}草^{かり}刈^い遺^{せき}跡Ⅱ

平成12年2月9日 印刷

平成12年2月21日 発行

編集 財団法人 市原市文化財センター

発行 株式会社 日鉄エレクトクス

財団法人 市原市文化財センター

千葉県市原市能満1489番地

TEL 0436 (41) 7300

印刷 株式会社 弘文社

千葉県市川市市川南2-7-2

TEL 047 (324) 5977